

第2回 第4次清瀬市地域福祉計画策定委員会

■ 議事要旨 ■

日 時 : 平成29年5月22日(月) 午後1時30分～3時30分

場 所 : 清瀬市健康センター 第2会議室

出欠席

※敬称略

		所 属
出席	赤川 都	市民代表
出席	小室 謙二	社会福祉法人 清瀬わかば会 管理者
出席	佐藤 眞一	民生・児童委員協議会
出席	関 昇司	清瀬商工会 事務局長
出席	西澤 忠登	医療法人財団 保養会 副本部長
出席	○ 長谷川 豊一	チーム竹丘(竹丘自治会連合)理事
出席	林 清	六小地区自治会連合会 副会長
出席	林 光夫	市民代表
出席	◎ 菱沼 幹男	日本社会事業大学 准教授
出席	福本 麻紀	おひさまネットワーク 代表
出席	星野 孝彦	社会福祉協議会 事務局次長
出席	八巻 浩孝	清瀬市 健康福祉部長
出席	渡部 栄子	NPO法人 子育てネットワーク・ピッコロ 事務局長

◎委員長 ○副委員長

事務局:健康福祉部 地域包括ケア推進課 福祉総務係 田中、上垣

コモン計画研究所:相澤、尾崎

開会

事務局 第2回清瀬市地域福祉計画策定委員会を開会します。本日、関委員が所用で少し遅れるという連絡をいただいています。時間となりましたので、始めさせていただきます。

1. 事務局からの報告

一事務局より配付資料の確認と傍聴者へ注意事項の確認

事務局 第1回清瀬市地域福祉計画策定委員会の議事録の要旨について、何かご意見、修正等がありますでしょうか。よろしければ、この内容でホームページに公開することについて、みなさんの承認をお願いします。

――同承認

2. 議題

委員長 今日は、計画の基本理念や考え方について、みなさんに自由に意見を出していただき、それをもとにこれから整理していきます。まず、今みなさんがそれぞれ活動している場所、機関で感じていること、また、活動するにあたり大事にしていることを出していきたいと思います。

(1)清瀬市地域福祉計画と関連計画(案)について

―福祉総務係より、配付資料をもとに清瀬市地域福祉計画と関連計画(案)について説明

委員長 9年間の計画ということでご説明いただきました。この点について、いかがでしょうか。9年後の地域がどうなっているかを意識することが重要で、清瀬市の人口や高齢化率を推計し、また子ども達の状況がどうなっていくのかなどを踏まえて、9年間の中で何をしたいらいいだろうかということ、考えていくことになると思います。

(2)地域福祉計画・目標事業評価調書について

―健康福祉部高齢福祉担当部長より、配付資料をもとに地域福祉計画・目標事業評価調書について説明

委員長 ご意見、ご質問等ありますか。

委員 これらの評価を実施しているのはどこですか。

事務局 まず健康福祉部、子ども家庭部内で協議し、「目標事業評価調書」を作成します。それを分野別の協議会や委員会で審議、検討した後、全てを扱う地域福祉推進協議会で審議、検討するという2段階で、評価を行っています。

委員長 評価の場合には、まず何が行われたかというところ、これをアウトプット評価といいますが、開催内容や回数について、進捗状況があがってきます。一方で、実際に行ったことによってどのような成果や課題が見えたかも考えなくてはいけないところです。取り組みを進めたけれども、それを必要とする人や興味を示す人が少なかったというようなことも起きるわけですから、今後については、計画策定しながら、私たちがつくる計画をどう評価していくのか、ということもこれからの議論の中で取り上げることができたらいいかと思います。

委員 この評価ですが、最終的にアウトカムが明確にならないと、アウトプット評価だけでは次年度への課題が出てこないと思います。課題が明確にならないと、次年度にどういうところを重点的にやっていったらいいのかというような効果的な計画をつくる議論にならないのではないのでしょうか。

委員長 とても大事なところですよ。限られた委員会の中では難しいことですが、事務局とも整理して、特に今回議論していく上で実質的に何が課題なのか、重点事業をどうするか、そこに焦点をあてていけたらと思います。

委員 定性目標(質的な目標)が多いですが、数値目標も入ってくるべきではないのでしょうか。そうすると、その施策が良かったのか悪かったのかということが全員の目に見えて、必要性などの判断ができます。今回策定する計画では数値目標を設定して、結果を評価していくべきだと思います。

委員長 目標を設定する時に、例えば、講座を何回開くというような数値目標にする場合と、講座を開いたことによって市民の方々の生活がどのように変わっていったのかという指標を設定して目標を立てることでは大きな違いがあります。数値目標を達成しても市民の生活が変わっていなければ、その数値目標自体がどうなのかということになりますので、どのような数値目標が大事なのかということを議論していただきたいと思います。

委員 数値目標の出し方を、単に何人集めるというようなものではなく、もう少し具体的にアウトカムを予想して、そのためにはどんな数値目標が必要かを考えて、数値目標を設定していければと思います。

委員長 例えば、ある講座を開催した際、受講者の数と受講者がどのような活動をしているかを見るなど、対象を数値と内容の両面からみていければいいと思います。評価を行う地域福祉推進協議会に、策定委員会の方から出す意見を整理していけたらと思います。

副委員長 この評価調書において、例えば進捗状況がCという評価事業の場合、次年度の事業概要の内容があいまいですが、もう少し具体的に評価することはできなかったのでしょうか。

事務局 評価については地域福祉推進協議会の中でも議論されています。地域福祉計画そのものが理念的な分野で、数値目標をあまり掲げていません。C 評価の事業については特に力を入れなければならないという部分はありますが、各市の状況、東京都や国の動向、予算措置の関係があり、全般的に調整して次年度の方針を立てています。今後はより具体的な方針や取り組みの目標を示していければと思っています。

委員長 重点事業の整理の仕方として、C評価になっているところを重点的に取り組むと掲げる場合と、新規事業を重点的に取り組むと掲げる場合の両方が考えられます。私たちもC評価になっている事業のところは、何をするのかを具体的に整理して丁寧に議論をしていきたいところです。

委員 委員会の開催回数は限られていますし、地域福祉計画をどう進めていくのかわからない中での議論になるので、評価に焦点を絞ると先に進まないで、評価の難しい課題を認識しながら、具体的に基本理念の議題に移っていったらいいと思います。

委員長 今後の進め方にも関係するところですが、今の段階ではみなさんが評価調書にとらわれずに、日々感じている課題や、こういうふうに関わりたいという思いを出していただく作業をして、一方で、実際この評価調書にも入っているように、他の福祉職の方が活動している中で課題として掘り出していることもありますので、次の委員会ではそれらを擦り合わせて整理をし、検討していきます。

(3) 地域福祉計画の基本理念、目標・方針の課題等について(グループワーク)

ー福祉総務係より、2つのグループに分かれてのグループワークの方法と議題について説明

委員長 地域福祉計画の基本理念を考えるために、今回は、日々みなさんが活動や仕事において大事にしていること、そして課題として感じていることを出していただきたいと思います。今回出していただいた課題は、次回以降の議題としたり、今後の取り組みや目標を考えたりすることにつながるとと思います。

ーグループワーク後、各グループのファシリテーター役を務めた委員がまとめを発表

委員 まず人材については、固定メンバーになってしまい、新しい人や若い人がいないので、新たな人材を育成したいです。相手の話をきちんと聞き、本音を聞きだして効果的な活動につなげられるような人材を育てたいです。人との関わり合いにおいては、違いを認めてお互いさまの精神で、今日支援している人が明日は支援される側にまわるかもしれないというような相互援助、支援の循環につながるような関係性を築いていきたいです。そこには守秘義務の問題があります。守秘義務は活動において大切にしている部分ですが、みんなに支援の輪を広げていくことと守秘義務を守ることが両立するためにはどうしたらよいか課題です。また、清瀬市は企業が少なく、福祉の町というイメージが先行しています。実際には、警察署がありません。地域格差が存在するなど、清瀬市の現状を把握した上で地域福祉の仕組みをつくりたいです。何か問題が起こった時にどこに相談すればよいかかわからないのが現状ですが、市が相談を受けた時、色々な部署で相談

をたらい回しにするのではなく、情報を共有化して循環する仕組みが必要とされているのではないのでしょうか。

委員

活動において大事にしていることは、相手を思いやることや身近な方との交流、人とのふれあい、周囲の人に関心をもつこと、つながりを大切にすること。そして子どもの居場所やだれもが参加することができるような場所をつくって、地域のつながりをつくることです。活動している中で課題と感じているのは、情報が届いていない、共有できていない、伝わり切れていないことです。人材養成の課題としては、地域の中に出て来るメンバーが固定されてしまい、男性が参加しないことです。また、活動場所や費用に問題があります。そして個々に活動はしていますが、連携ができていません。市民がお互いのつながりの中で問題を発見し、支えあえるように、地域の中でお互いを支える力が育っていけばいいと思います。

委員長

限られた短い時間でしたが、大切なことが出ているように感じます。弱い立場の人の声をしっかり聞き、彼らに情報を届けること。そして彼らと地域の人々が接する場、地域のつながりが生まれる場をどうするか。自然発生的な地域の力ではなく、一歩踏み込んだところを考えていくのが地域福祉計画の大事なところだと思います。その時に支援という言葉の難しさ、支援を受け続ける立場の苦しさを考えなければならぬので、お互いさまの精神を大事にしたいということもありました。基本理念の中に入れていきたいものがあつたように思います。今後の進め方についてですが、今回出していただいた内容を、事務局とコモン計画研究所で、既存の基本理念、目標、施策とつなげる部分と、新しいものを打ち出す部分とを見やすく整理していただきたいと思います。次回の委員会では、基本理念や方針のたたき台を検討したいと思っています。まず、たたき台をつくるために作業委員会のメンバーを募らせていただいて、お力添えをいただきたいと思っています。作業委員会についての説明をお願いします。

事務局

小委員会(ワーキング)というかたちで、7月3日(月)13:30からコミュニティプラザひまわりで開催いたします。人数としては委員長を入れて5~7名を考えています。ワーキングメンバー以外にも資料や議事録を送付させていただき、内容は委員全員で共有していきます。それでは、参加していただける方は挙手をお願いします。

一挙手により、6名のワーキングメンバーが決まる

委員長

今回は、重点事業についても議論していきたいと思っています。今回は時間の関係で、みなさんの考える今後取り組みが必要なことについて、ご意見を出していただくことができませんでした。それについても今後みなさんからご意見いただき

ながら重点事業としてどういったことが必要なのか検討していきたいと考えています。その他で何かありますか。

3. その他

事務局 次回、第3回の策定委員会は、8月21日(月)13:30から開催します。場所は本庁舎4階の委員会室になります。事前に開催のご案内と資料等をお送りいたします。

委員長 第2回第4次清瀬市地域福祉計画策定委員会を閉会いたします。